

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年一月度 入選句 (投稿総数三千五百三十一句・小中学投句数三千八十句)

特選

親せきの力じまんがもちをつく 大垣市 伊藤 舜理(小五) 選者 高木 恵理

親戚のお兄さん、叔父さんでしょうか。体格の良い男性が威勢の良い声で力いっぱい餅をついている様子が想像されます。その動作に加えて、臼の横で餅をひっくり返しながら合いの手を入れる声、笑い声さえも聞こえてきそうです。そこに居る親戚みんなが正月にはその餅で雑煮を食べるのでしよう。正月に向けて準備をする、年末の忙しい中にも親戚が集まる賑やかな雰囲気伝わってくる温かい一句です。

お手つだいふやしてまつよクリスマス 大垣市 佐藤 莉子(小二)

子供たちが大好きなクリスマス。作者の欲しい物は一つに決まっていたのではないのでしょうか。「お手伝いをする」という作者の心掛けの良さに感心します。作者の思うサンタさんはどんな人なのか、聞いてみたくなる句です。

いつもより星に出会える冬の空 大垣市 糺矢 みう(小六)

鼻がツンをするような夜の冷気、そして、深い藍色の空一面に細かく瞬く星。そんな光景が見えてきそうです。町の光も消えた遅い時間帯に作者は空を見ていたのかもしれないね。この晩、どんな思いで星を見ていたのでしょうか。「いつもより」という言葉から、普段も星を見ていることが分かります。大空のような大らかな人柄が伝わってくる句です。

秀逸

白いききなんどもハアハアしたくなる 大垣市 佐藤 莉子(小二)

おしろうがつぼうずめくりで大わらい 大垣市 早野 立希(小三)

こま回しぼくは宿題後回し 大垣市 川地 功暉(小三)

おもちつきいきごむわたしちからつき 大垣市 藤墳 杏羽(小三)

たこ上げで風まちきれずもうダッシュ 大垣市 山岸 快飛(小三)

なわとびの目標こえた冬休み 大垣市 清水 優斗(小四)

ちらちらと雪がふります彦根城 大垣市 金森 公佑(小四)

お母さんの近くにいつてあたたまる 大垣市 伊藤 琉唯(小四)

新しいはかまに着がえ初げいこ 大垣市 松村 智嘉(小四)

しんせきをたずねまわっておおみそか 大垣市 小谷 熙人(小五)

入選

ゆきだるまとてもおおきくつくったよ 大垣市 やすい ゆずは(小二)
 ともだちとゆきがっせんでおおあばれ 大垣市 はら こうたるう(小二)
 しもばしらしやりしやりしやりとながぐつで 大垣市 小川 誠 悟(小二)
 冬 桜 白 い 空 あり 花 が あり 大垣市 河合 舞 葉(小六)
 冬の川鳥の親子も身を寄せる 大垣市 林 恵 大(小六)
 ゆきつもるころんでぼくはゆきだるま 大垣市 さんま ゆうき(小二)
 冬の空大垣じょうにはとがくる 大垣市 三輪 凱 輝(小三)
 ゆきだるまげんかんのまえるすばんだ 大垣市 そうみや けいた(小二)
 心 から 鍛 え 直 す 寒 稽 古 大垣市 高岡 凜(中二)
 塾帰り見上げた空に冬三日月 大垣市 武田 晃 拡(中二)

入選

ふくわらいくちとおめめがはんたいだ 大垣市 山田 伊 真(小二)
 神様に幸せいのる初もうで 大垣市 平松 由 衣(小三)
 おそくまで起きて待ったよじよ夜のかね 大垣市 成 瀬 謙 伸(小三)
 火の神にそなえていのるかがみもち 大垣市 奥 田 蒼 弥(小三)
 ハトたちがハト語でポツポ初詣で 大垣市 坪内 哲 平(小三)
 ぞうきんが真っ黒になる大そうじ 大垣市 新 居 蒼 太(小四)
 お正月家族みんなで東大寺 大垣市 大 橋 結 愛(小四)
 ばあちゃんに教えてもらうこままわし 大垣市 澤 田 莉 央(小四)
 父さんが大かつやくの大そうじ 大垣市 國 嶋 小 春(小四)
 福ぶくろ家族みんなであけました 大垣市 加藤 心 羽(小四)

選者吟

耳当てをしてどぶろくを売りにけり

恵

理